

## ＜図書館のあゆみ＞

東村山市立図書館は、市民の図書館建設要望を受け、さらに市民が参加した「図書館専門委員制度」により市民の意見を反映して、昭和49年にスタートしました。

当市では、昭和40年代中ごろから「文庫」活動が盛んに行われるようになっていました。文庫とは、子どもと本の出会う機会を大切にしようとする地域の人たちが、自宅や集会所等を使って子どもの本を自主的に収集して、貸出や読み聞かせなどを行う地域の図書館活動です。昭和42年に開館した「くめがわ電車図書館」は美住町で現在も多くの子どもたちに利用されている文庫です。これらの文庫やPTA関係者等による図書館設置を願う市民運動がきっかけとなり、市立図書館の建設が決まりました。さらに、文庫関係者等の市民参加による「図書館専門委員制度」を設置して図書館の基本計画が検討され、昭和49年に中央図書館が開館しました。

その後、昭和54年には障害者サービスの拠点として富士見図書館が開館し、昭和56年には17万冊規模の共同閉架書庫を備えた萩山図書館、昭和63年には庭で本を読める図書園のある秋津図書館、平成4年にはティーンズコーナーを充実させた廻田図書館を開館し、図書館の5館構想が完成しました。

運営にあたっては、平成6年の電算システムの導入をはじめとして、開館時間の夜間延長、祝日開館、都立図書館や他自治体図書館との相互貸借ネットワークの進展、インターネットによる蔵書検索や予約の開始など、資料や情報をよりの確に迅速に提供するための環境を整えてきました。開館当初と平成23年度の比較では、蔵書冊数は3万2千冊から75万冊へ、貸出冊数は35万冊から116万冊へと増加し、多くの市民の皆様にご利用されています。

子どもの読書については、開館当初から東村山市文庫・サークル連絡会をはじめとして、子どもたちの豊かな成長を願って読書活動を行う市民との協働を進めています。平成17年には子ども読書活動推進計画を、平成22年には第2次計画を策定し、学校や関係機関との連携を図り、読み聞かせや学校図書館支援など多くのボランティアとの協働により、子どもと本をつなぐ活動を実施しています。さらに、東村山朗読研究会など多くの関連団体のご協力も得て、市民により創られた図書館として、市民生活に役立つ図書館活動を継続しています。